

2018 年度定演期 MS ステージ選曲委員会 意見シート

文責：T2 五月女 誠史

はじめに、候補曲を絶対的及び相対的に比較検討するにあたって

〈A〉 楽譜を見ずに聴いた第一印象で、1 人の歌手としてどれが歌ってみたいか

〈B〉 楽譜を見つつ聴いた第 n 印象で、技系として A に加え技術面、構成面も加味してとし、2 種類の順位付けをした。以下がその結果である(上がより好印象)。

〈A〉

- ・ 森の憧憬
- ・ 光と闇
- ・ 銀河鉄道の夜
- ・ フィルピン音楽の窓
- ・ 祈る
- ・ drei gesänge

〈B〉

- ・ 銀河鉄道の夜
- ・ 森の憧憬
- ・ 光と闇
- ・ フィリピン音楽の窓
- ・ 祈る
- ・ drei gesänge

それではまず、今回の選曲に対する全体的な意見を上の各順位付けの相対的な位置関係と絡ませながら述べていく。

〈A〉について、自分は個人的に外国語の曲と比べ日本語の曲により親近感を覚えるため日本語曲最良になりがちであるが、今回の 2 曲に関しては初めて音源を聴いた時に既に楽譜に目を通していたからか単なる好みの前に指導するのは大変そうというフィルターがかかってしまい第一印象はぼちぼちだった。その代わりに、「森の憧憬」はファーストインパクトが強烈で音源のような出来が実現すれば何とも映えるステージになるだろうと思った。「光と闇」について、Lux Aurumque は男声版ではあるが歌ったことがあり馴染み深く、Nox Aurumque は最初に聞いて光と闇との対称性が意識され聴き心地が良かった。また、「フィリピン音楽の窓」は新鮮で外国語をやるならこういうのもいいなあという感じであった。「drei gesänge」はぶっちゃけ聴いていてそれほど印象に残らなかった。他の作業をしながら聴いていたというのものもあるかもしれないが、他の曲も同様であったため単に個人の趣味の問題だと思われる。

以上は主に主観的な好みに基づく見解であり、これを踏まえて〈B〉について述べる。まず先に言っておくとこれは無理！って曲はない。正直技術的に考えるとどれも大変そうに思えてしまうのでそこまではっきりと差はつかない。そこで「MS ステージ」として MM、SM と荘厳な大曲が並ぶ中に組むことを考えると、「銀河鉄道の夜」「森の憧憬」「フィリピン音楽の窓」はまた違った味が出せると思った。特に「銀河鉄道の夜」に関しては

楽譜を見ながら聴いているうちに1曲の中で多彩な色を味わえる曲だと痛感しモチベが爆上がりした。「森の憧憬」が練習に一段と特別な工夫が必要であることを考え逆転1位となったが両者に大差はない。でもやっぱり日本語曲は聴いていてすぐ歌いたくなるなあ。一方、「光と闇」「祈る」「drei gesänge」は他3曲と比べMSにしたらずいぶん映に欠ける気がしたところで、上位2曲と少し間が空いて「光と闇」「フィリピン音楽の窓」が続く。「光と闇」への親近感が優った装いである。「祈る」は日本語曲であり聴いた感覚もこの2曲と比べ引けを取らないが、やはり少し重く感じられるのと、既に2ステージ日本語曲に決まっている以上総会に2つ日本語曲を持っていくのは気が進まなかった。「drei gesänge」をやるなら色を捉えやすい「光と闇」か「フィリピン音楽の窓」の方が良いなあと思いあのような順位付けとなったが、先に述べた通り特段やりたくないという曲はない。ただ上位2曲のモチベは少しとび抜けているかもしれない。

次に、上記を踏まえて各候補曲について簡潔に述べていく。

○銀河鉄道の夜（詞：宮沢賢治／曲：信長貴富）

まず言えることとしてモチベが高い。聴いていてすごく楽しい。□ずさんでみてさらに楽しい。大勢で歌えばさぞかし最高に楽しいのでは、と思う。自分で言うのもなんだが、やはり担当する技系のモチベは選曲における絶対条件だと思うのでとりあえず総会まで出して皆さんの反応をみたいなあと思切に思う。アバウトな望みはこころ辺にはしておいて、最初某楽譜屋に行って偶々この楽譜を見つけた時は、「初っ端から14div.かよ()」「半音上昇 glissando 多いな()」って思い、過剰な心配を抱えて初めて音源を聴いた時は「良さげな曲だけど鬼畜だしなあ…」という印象であった。が、いざ楽譜を見ながらよくよく聴くと、複数 div.で言葉が重なる縦の立体感と、パートごとに言葉の粒を鮮明にはめて刻んでいく曲の行進と、背景に流れる擬音語の技巧的な部分と、全体で横に流れていく流動感と、、、12分という1つの長い曲であるがその中で多彩な色を映し出すところに感銘を受けた(べた褒め)…ので無駄にモチベが高い。あと個人的にガタンコゾーンがツボ。部分部分に特有の色を出すのは決して容易ではないが、柏葉のように十人十色な学生が集った大規模な合唱団なら時間をかけて作っていいのではないかな。天文関係ということで言えば若干かぶるかもしれないが、愛の天文学が荘厳な雰囲気なのに対し、銀河の不思議できらびやかな感じを出せれば構成的にも良いのではなかろうか。div.も多く最初は音とリズムを正確に合わせるのに苦労を要するだろうが、リズム読みを徹底してその中で語感も合わせていければ…。最後のハレルヤゾーンは耳を使えないと練習が捗らないと思うので、自分が耳を使う訓練をしなくてはならない。

○祈る （詞：長田弘／曲：三宅悠太）

終始厳かな曲であり、メッセージ性の強さをひしひしと感じる。MM、SM と荘厳な曲がそびえ立つ中でまた違ったインパクトを残さねば1つのステージとしては映えないだろう。その雰囲気作りで鍵を握るのがI、II共にvocaliseの歌い方であると思われる。長くパート感で合図を送りながらのvocaliseで全体の雰囲気を構築していくには、声を出す前の段階、つまりは吸うことを含めたブレスの感覚の共有が必要になるのではないか。全体のアンサンブルのときだけでなく、基礎練の時からパートで連携をとって意識して練習を積んでいければと思う。このブレスの意識はこの曲に限らず意義あるものなのではないかと思う。中間部のメロディーはとても綺麗で心地が良いが、同様の硬派な言葉が続くため詞の伝え方は熟慮する必要があるのでは。学生合唱団でメッセージに寄り添って息を合わせて歌い上げることができればさぞかし意義のあるステージになるだろう。また歌にも当てはまるがピアノにも変拍子が多いため、ピアノと合わせるのは苦勞するのではと思った。

○フィリピン音楽の窓（オムニバス）

あまり世に見ないステージで興味深いものになるだろう。東南アジアの合唱曲に触れたことのある人は決して多くないだろうが、その分十分新鮮味のあるステージになると思う。オムニバスとして2つの宗教曲が選ばれたが、曲調は全然異なるため、歌う側も強いて飽きることなく、逆に2方面から歌詞について考えることができるのではないか。曲について、まずDoxologiaだが、全体的に流れて進行していくため、ピッチ等の維持を常に念頭に置きながら流れ、かといってただ流れているだけの演奏にならないように心がけるねばならない。また男声と女声で聴き合わないたらけた演奏になりそう。通して歌うこと自体はそこまで時間をかけずに達するかもしれないが、その後基盤を強化しつつ色をつけていく必要がある。テナーにシリがあるのがなんとも。次にGloria partiについて、まず最初の女声が高い。そして速いところでパートごとに歌詞がずれるため、正確にリズムを刻むのにはアンサンブルでの練習がだいぶ必要なのでは。1曲目とは違い一風変わった宗教曲であるため充実感を持って歌うことができる気がする。

○光と闇（オムニバス／曲：Whitacre）

光(Lux)と闇(Nox)という対称性がわかりやすいオムニバス。歌い手はその対称性を念頭において練習することができるが、それを聞き手に実感させるにはどうすれば良いのか。実現できれば非常に見応えのあるステージになるであろうし、やりがい十分であろう。まずLux aurumqueに関して、個人的な話であるが、男声版ではあるが高校2年生のときアンサンブルコンテストに向けてがっつり練習したので物凄く思い入れがある曲である。当時は3年生の先輩方が引退した直後であり、グリークラブの3年間で最も辛い時期であ

ったが、辛い中ひたすら練習しただけに愛着は大きい。懐かし話はこころ辺にしておくが、実際男声版の経験は今回に活かせると思う。デュナーミクに注意して光の優しさを会場に響かせられれば次の闇への伏線となるだろう。柏葉はデュナーミクへの意識が欠如しているので、特に p での歌い方を全員で体得する必要がある。ちなみに高校での本番の際はステージ全体に散らばって演奏した。次に Nox aurumque に関して、ズバリ高い。Lux 同様に繊細なデュナーミクの変化を表現しつつ高音域を歌うのは難しく、裏声を上手く使うことが必要だと考えられる。柏葉ではあまり裏声の練習はせず、それ故高音域での dim. で声を張ってしまいがちであるが、そのような発声のみで「闇」の雰囲気を出すのは厳しいため、早いうちから裏声のトレーニングをするべきかと思われる。後はこういう持続性の求められる曲で毎回言われるのが体力の問題であるが、去年の夢の意味やこの前のねがいごとの際も問題視されつつなんとかあったのでとにかく 7 ヶ月間みっちり練習を積みた。

○森の憧憬（オムニバス）

インパクトは抜群である。指導できるかはさておき、やってみたい感は強い。はまれば非常に映えるステージになるだろう。特に 1 曲目の kondalilla は技巧的な歌い方が多く用いられ、まず技系が指導する側になれるのかにも問題はある。この点についてはこれまでも議論されているが、今回の委員会で改めて整理したい。会場全体を使った情景描写の実現に向けた練習方法についても話し合う必要がある。ちなみに非常に近い知り合いにホームー得意な人(実際どれほどなのかはわからないが)がいる。他にも幅広く情報を集めて試行錯誤を重ねれば納得のいく演奏も全然できなくはないと思うので、より特異なチームでのコミュニケーションが必要になるのではないかな。2 曲目の little tree は肌触りが素敵である。パート及びピアノとの掛け合いで綺麗な旋律を作っていきたい。歌い心地がいいのは間違いなしだが、周りに耳を向ける意識を忘れては美しさが発揮されないだろう。

○drei gesänge（曲：max reger）

どっしりとした外国語曲で、MS にしては少し硬派で重いかと思う。ドイツ語の発音は早いうちに練習すれば特に問題ないかと思うが、なにせ高い。基礎練の段階からこの曲にあった発声を意識する必要があるだろう。また 2 群合唱となると指導方法も工夫しなくてはならないが、今までの候補曲も散々 div. があったから苦労はそんなに変わらないか。淡々と歌えばある程度の形にならそんなに時間がかからず持っていけるかもしれないが、その後の地味な練習でモチベを維持できるかは正直不安である。口調からも分かるかもしれないが、他と比べてあまりモチベが上がらない。嫌な感情は全然ないのだが…。竹村さん曰く一番難しい曲だそうで論点はまだまだありそうだが、明日(今日)は五月祭なのでもう寝ます。